様式２

輸出事業計画
※申請者名：株式会社リブル、品目：牡蠣

１．輸出における現状と課題

【現状】
・当社は、牡蠣の生育の安定化及び歩留まりの向上を図るため、先進的な養殖技術であるシングルシード方式を導入しつつ、干出による成長抑制を実施することによって、輸出先国のニーズに対応した輸出の対応を図っている。
・日本の人口減少、経済停滞を見据えて、成長する新興国市場の獲得を目的として、令和4年度から東南アジア産直ECを運営する企業と連携し、マレーシア国内飲食店向けの生食用殻付き活き牡蠣の海外輸出を開始。令和8年7月現在、ベトナム及びインドネシア向けの輸出実績を有し、ベトナム向け冷凍規格の出荷及び台湾向けの商流構築を進めている。
・輸出ターゲット国についてはシンガポール、マレーシア、インドネシアに加え、ベトナム、タイ、UAE、台湾を追加し新たな市場開拓を積極的に行なっていく。こうしたターゲット国では殻付きで生食できる牡蠣（冷凍/活共に）のニーズが成長しており、今後も大きな取引を見込むことが可能であると考えている。

【課題】
生産・製造
・冷蔵活き牡蠣市場に参入するために、日持ちがよく、生食に適したサイズに生育させるため、潮間帯養殖を導入する必要がある。
・単一産地では年間を通じた安定供給及び大ロット出荷への対応が難しく、複数産地を一体とした生産体制の構築が必要である。
加工
・ディストリビューターからは冷凍加工品の要望があるため、冷凍の牡蠣についても対応を進める必要がある。
・海外輸出にあたってHACCP等の衛生管理が必要なため、社員教育の体制を構築する必要がある。
・輸出先国ごとに異なる衛生管理基準・施設要件への対応及びトレーサビリティの確保が必要である。
物流
・国内物流（産地から市場・空港まで）において、徳島県南部の市場便廃止による影響で、民間の運送会社の利用しか選択肢がない。
販売
・冷凍商品の取引価格、細かいマーケティング戦略とそれに伴うデザイン戦略、海外ブランディングが欠如している。

２．輸出事業計画の取組内容

生産・製造
・人工種苗のシングルシード生産方式を用いた養殖に取り組み、連携漁場を全国に拡大中。令和7年度補正ＧＦＰ大規模輸出産地形成プロジェクトを活用し、延縄式養殖資材等の導入と「Oysmart」による養殖データの一元管理を進める。

牡蠣の種苗から成品までを育成・販売



三倍体人工種苗
染色体操作を行い、産卵しない＝身落ちせず、**1年中食べられる牡蠣の種**を生産。

中間育成貝
短期サイクルで生産できる半成品。
試験養殖にも活用できる牡蠣も
自社漁場で生産。

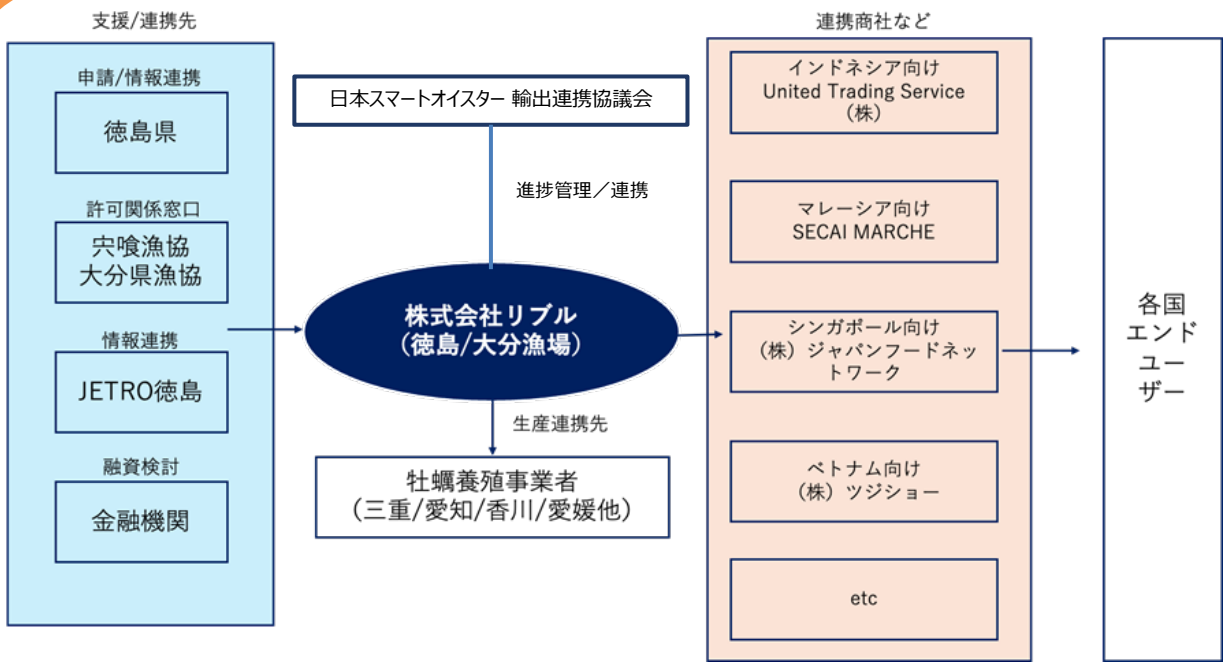
成品貝
欧米で浸透しているカゴを使った養殖手法で、
✓ **美しく身入りの良い**牡蠣生産
✓ **データ取得**しやすい養殖工程
✓ 拡大しても**海を汚さない** を実現。

加工
・2023年から冷凍加工品の商品化に着手。社員教育を通して「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」の徹底を目指す。
・20,000個／日の浄化ユニットを導入し輸出先国の衛生管理基準に対応。「Oysmart」により種苗から出荷までのトレーサビリティを確保し、品質保証体制を強化する。
物流
・日本通運の専用定期便を活用し、輸出商社及び各国ディストリビューターと連携して最適な物流体制を構築する。
販売
・GFP事業により外部専門家を招聘し、マーケティング・デザイン戦略を策定。台湾を新たな重点輸出先として販路開拓を進めるとともに、大ロット供給体制の構築により価格競争力を高め、ASEAN・東アジア市場への輸出拡大を図る。

様式２

輸出事業計画
※申請者名：株式会社リブル、品目：牡蠣

３．輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



産地連携養殖：大規模生産および高歩留まり養殖を実現させるため、適時適地での養殖を実施。
宍喰漁協による協力：漁業権の付与や地域での漁業者雇用に協力いただく。
徳島県生産流通課（販売・物流支援室）：商談会や輸出商社とのマッチングへの協力をいただく。
日本スマートオイスター輸出連携協議会：生産者、輸出商社等の関係者間の連携及び大規模輸出産地形成に向けた取組の進捗管理を行う。
株式会社ツジショー及び各国ディストリビューター：輸出実務、商流構築及び販路開拓を担い、台湾は直接取引を基本とする。

PLAN
宍喰漁協協力の下、ジェトロ徳島、徳島県生産流通課がサポートして輸出対象国毎に輸出計画を作成

DO
産地連携先、国毎に現地バイヤーと協力しながら輸出計画に基づいた取り組みを実行

CHECK
日本スマートオイスター輸出連携協議会において事業計画の達成度を確認し、取組の有効性評価を実行し、マーケットニーズの把握と整理、需要を把握

ACTION
輸出相手先のニーズに合わせた商品改善と提案を行い、問題点の改善・事業計画の見直しを実行

４．輸出目標額

品　目		現状 （令和４年度） 2022年４月～2023年３月	目標年 （令和10年度） 2028年４月～2029年３月
牡蛎	輸出額（千円）	100	100,000
	輸出量（kg）	40	40,000
	輸出国先	マレーシア	マレーシア、インドネシア、シンガポール、ベトナム、タイ、UAE、台湾